

朝鮮人・中国人 強制連行・強制労働を考える 全国交流集会

侵略の歴史・地下軍需工場跡現地調査・見学会へ参加を!!

いまなお解明されない
侵略の歴史が、私たち
の足もとにある。

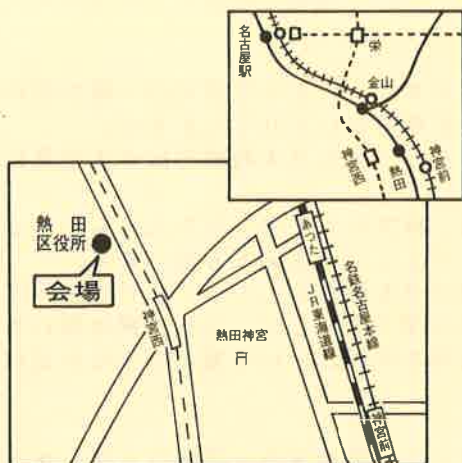
日本の侵略戦争末期、
1944年～45年8月15日。
日本全土に展開された
軍事施設・工場の地下
移設工事の歴史。



数知れぬ朝鮮人・中国
人が連行され、いくつ
もの命が奪われていつ
た。

いま、地下軍需工場の
間の中から、侵略の歴
史を照射する作業を
私たちの手で!!

岐阜県瑞浪市・地下工場跡



■と き 1990年8月25日(土)～26日(日)

■ところ 名古屋市 熱田区 熱田区役所ホール

名古屋市熱田区旗屋9-5 ☎(052)681-1431

JR「熱田駅」下車・徒歩7分/地下鉄「神宮西」下車・徒歩2分

■日 程 ●全国交流集会 25日(土)1時～5時

●地下軍需工場跡現地調査・見学会

26日(日)8時30分(出発)～3時

*現存する地下軍需工場として最大規模の岐阜
県可児市の地下工場へ行きます。

■参加費

- ・会場費 500円 ・資料費 1000円
- ・現地調査・見学費 3000円(バス代)
- ・宿泊費(一泊3食) 4000円

■主 催 全国交流集会準備会

●呼びかけ 賛 同 団体・個人

司馬の会

札幌郷土を掘る会

(名古屋)

指紋捺捺を考える八王子の会(北海道)

中国人強制連行を考える会(東京)

在日朝鮮人運動史研究会(東京)

相模湖ダム歴史を記録する会(山梨)

豊橋日中友好協会(愛知)

ノーマア南京の会(愛知)

あるすの会(愛知)

日朝協会愛知県連合会・愛知県下の

朝鮮人強制連行の歴史調査班(愛知)

半田空襲と戦争を記録する会(愛知)

瀬戸地下軍需工場跡を保存する会(愛知)

アジア太平洋地域の戦争犠牲性に思

いを馳せ心に刻む高山集会(岐阜)

三重朝鮮人史研究会(三重)

在日韓国・朝鮮人の人権を考える会(三重)

三重県木本町で虐殺された李基允・

妻相度の追悼碑を建立する会(三重)

外登法と人権を考える会(大阪)

花岡蜂起!!問題にこだわる会(大阪)

アジアフレンド(大阪)

タチソ戦跡を残す会(高槻)

神戸学生青年センター(兵庫)

兵庫朝鮮関係研究会(兵庫)

戦争の記録を残す西宮市民の会(兵庫)

亀島山地下工場を語りつぐ会(岡山)

花岡の会(広島)

一条三子(教員)(埼玉)

寺田貞治(教員)(神奈川)

(一九九〇年六月現在・順不同)

20世紀前半の半世紀の間に、数100万人の朝鮮人が故郷を離れて、中国東北部、日本、シベリア、サハリンにむかいました。そのうち数100万の人々は、1930年代末から1945年までの間に日本とサハリン、南方等に連行され、鉱山やダム工事等で酷使されました。

また、同時期に約5万人の中国人が華北労働協会等を通じて強制連行され、そのうち7千人の人々が命を奪われました。

自分の意志で故郷を離れた朝鮮人の多くも又、朝鮮が日本に侵略されなければ、故郷を遠く離れて異郷にむかうことはなかったでしょう。

日本に渡った朝鮮人のうち、1945年8月15日までに炭坑、ダム工事、トンネル工事などで何人が死んだのか、日本の各地で何人が日本人に殺されたか。10年後に21世紀を迎えようとしている今もなお、20世紀の前半期に日本で命を奪われた朝鮮人の数は明らかになっていません。数がわからないという事は、1923年9月に関東で殺された6千人とも1万人ともいわれる人々を含め、いまなお、日本の各地域に、故郷に帰りつくことのできなかった朝鮮人の心と体が埋められています。

日本の経済基礎構造である鉄道、道路、ダム、港湾等の建設を最底辺で担わされたのは朝鮮人や中国人労働者でした。日本の敗戦後の経済成長はその基礎構造を基盤に、朝鮮戦争時の特需を契機にして成り立っているものです。

にもかかわらず、日本政府も大企業も過去の侵略の歴史を隠し続けています。アジア侵略戦争時に日本兵、軍属として「徴兵」「徴用」された朝鮮人のうち、約12万人が行方不明になっていますが、厚生省は、その名簿を所有していながら公開を拒否しています。三菱重工、鹿島建設、間組・・・は数知れぬ朝鮮人、中国人を酷使、虐殺しておきながらその事実を隠し、何ら責任をとろうとしていません。

これまで、各地で在日朝鮮人、中国人および心ある日本人らによって真実の一端が明らかにされてきました、しかし朝鮮人労働者のことは殆ど明らかにされていません。

孤立した調査では限界があり、又、侵略の証拠を隠そうとする日本政府当局や大企業にしっかりと対抗していくこともできません。

これまで、日本の各地域で、個人、グループで調査、研究をすすめてきた人たち、そして、これから始めようとする人達が連絡を取り合っていくことが大切だと思います。

互いに連絡を取り合い、その連絡網を広げ、その網の日を緻密にしていくことによって個々の調査、研究が深まり、そして各地の調査、研究が深まるならば、さらに網は強いものとなって、侵略の歴史的責任を回避しようとするものを包囲していく事ができると思います。

この連絡網を、さしあたり強制連行・強制労働を考える全国交流会と呼ぼうと思います。各種鉱山、発電所、鉄道や道路のトンネル、地下工場・・・朝鮮人や中国人労働者が酷使され、健康を奪われ、事故や病気で命を失った場所の多くは地下の暗やみでした。

そして今もなお、日本の各地の地下に埋められている朝鮮人や中国人労働者が少なくありません。それらの朝鮮人や中国人の所にたどりつきたいと思います。在日朝鮮人、在日中国人にとって、生きて故郷に帰ることのできなかった同胞の埋められている地域こそはなぜ自分が日本にいるのかという歴史的な理由をはっきりさせる場所だと思います。

日本人にとっては、その地域は、自らの侵略の歴史を明らかにしようとする時には、必ずたどりつくべき原点なのだと思います。

たどりつくべき所にたどりつくまで、調査と研究の領域で、私たちは、民衆の歴史を掘りすすめていく。そのような思いで今後の全国ネットワーク作りを展望しながら、まずは全国交流会をもとうではありませんか。

在20世纪前半的半世纪间，几百万名朝鲜人离开了家乡，踏上了赴中国东北部、日本、西伯利亚、萨哈林的旅程。其中有几十万人，在1930年代末至1945年间被强制带到日本、萨哈林及南方各地，从事严酷的矿山、水坝工程。

与此同时，通过华北劳工协会大约有五万名中国人也被强制带走作苦力，其中7千人丧生于异国他乡。

虽说有好些朝鲜人离家远走是自愿的，但，如果没有日本对朝鲜的侵略，相信是没有人会情愿背井离乡的。

在渡日的朝鲜人中，到1945年8月15日为止，丧生于煤矿、水坝工程、隧道工事的不知有多少人，又不知又有多少人在日本各地惨遭杀害，在即将迎接21世纪的今天，我们对20世纪前半期在日本丧生的朝鲜人数至今仍未能有一个明确的答案。包括在1923年9月在关东被杀害的6千人（又说1万人）在内，至今在日本各地仍然埋葬着无法回归家园的朝鲜人的身心和躯体。

建设被称为日本经济基础构造的铁路、道路、水坝、港湾等的最底层的担当者朝鲜人和中国人。日本战败后的经济成长是以这个基础构造作为基盘，利用朝鲜战争时的“特需”而发展起来的。

尽管如此，日本政府和日本大企业却想继续隐瞒历史。亚洲侵略战争时做为日本兵、军属而被征兵的朝鲜人中，约有12万人大落不明。日本厚生省明明掌握有花名册却拒不公开。三菱重工、鹿岛建设、间组等等，他们酷使、虐杀了数不清的朝鲜人和中国人，却想隐瞒真相，拒付任何责任。

到目前为止，在在日朝鲜人、中国人及一部有良心的日本人的帮助下，我们已经揭开了一部分事实的真象但是朝鲜劳工的问题始终没有得到真正的解决。

仅仅依靠孤助无援的调查是有限的，而且也无法与企图隐瞒事实的日本政府和大企业做坚决的抗争。

所以我们认为：至今为止，在日本各地以个人调查、小组调查的方式进行研究的人们以及准备开始着手研究的人们，应该携起手来，加强联系。

靠着加强相互的联系来扩展联络网，联络网织得越密，单个的调查、研究就会进行得越深，各地的调查、研究越深入，这个联络网的力量就会越强大，越可以阻止住那些企图逃避侵略的历史责任的出入口。

暂时我们给这个网取名——“强制连行、强制劳动问题研究全国交流会”。

在各种矿山、发电所、公路隧道、地下工厂等等，朝鲜人和中国人被强制劳动，健康受损，惨遭事故，生病至死。其大部分场所都是在暗淡无光的地下。

即使是现在，仍有很多朝鲜劳工、中国劳工被埋葬在日本各地地下。我们愿去追溯这些朝鲜人和中国人。对在日朝鲜人、在日中国人来说，无法在有生之卒回到祖国去的同胞被埋葬之地，正是历史上他们弄清为何自己会生长在日本的缘故之地。

对于日本人来说，当要了解自己国家的侵略史时，那些地方正是可以追溯的“原点”。

我们要调查、研究，继续发掘民众的历史，直到到达我们渴望追溯的“原点”为止。以这个想法为基础去展望今后的联络网，难道不是首先应该拥有一个全国交流会吗？

20세기 전반의 반세기 동안에 수백만명의 조선인이 고향을 떠나 중국동북지방, 일본, 시베리아, 사하린으로 흩어져 갔습니다. 그 중 수백만명의 사람들은 1930년대 말기부터 1945년 동안에 일본과 사하린, 남양군도 등지에 연(련)행 당해서 광산이랄지 댐공사장에서 혹사당했었습니다. 또 같은 시기에 약 5만명의 중국인이 화북로공협회 등을 거쳐 강제연(련)행 당했으며 그중 7천명 사람들이 목숨을 빼앗겼습니다.

스스로 고향을 떠난 조선사람들도 역시 조선이 일본의 침략을 당하지 안했으면 고향을 버리고 떠나면 타향으로 나오지 안했을 것입니다.

일본에 건너 온 조선인 중에서 1945년 8월 15일까지 탄광, 댐공사, 땅굴공사 등 현장에서 몇명이 죽었는지, 또한 일본 각처에서 몇명이 일본인 손에 의해 목숨을 잃었는지 모르겠습니다. 10년후에는 21세기를 맞이하려는 현재도 아직 20세기의 전반기에 일본서 목숨 빼앗긴 조선인의 숫자는 명백하지 않습니다. 1923년 9월 간토지방에서 학살 당한 조선사람은 6천명이라고도 말해지며 다른 일설로는 1만명에 달한다고도 말해지는데 그사람들을 포함하여 지금도 계속일본 각처에 고향으로 돌아가지 못했던 조선인의 마음과 육신이 매워져있습니다.

일본의 경제 기초 구조인 철도, 도로, 댐, 항만 등의 건설을 최저변에서 떠받친 사람은 조선인이나 중국인 노(로)동자였습니다. 일본의 패전후 경제 성장은 그 기초 구조를 발판으로 하여, 또한 조선 전쟁의 특수 경기를 계기로하고 있습니다. 그럼에도 불구하고 일본 정부도 대기업도 과거의 침략사를 계속 은폐하고 있습니다. 아세아에 대한 침략 전쟁시에 일본 군인, 군속 등으로서 「징병」 「징용」 당한 조선사람 중의 약 12만명이 행방불명이 되어 있는데 일본후생성은 그 명단을 갖고 있으면서도 공개를 거부하고 있습니다. 미쓰비시 중공, 가시마 건설, 하자마구미... 등은 술한 조선인, 중국인을 혹사하며 학살까지 저질러 놓고도 그 사실을 은폐하며 한치의 책임도 지지 않으려 하고 있습니다.

요때까지 각처에서 재일 조선인, 중국인 및 양(량)심 있는 일본인들에 의해 진실의 일단이 밝혀졌습니다. 그러나 조선인 노(로)동자에 대해서는 거의 밝혀지지 않고 있습니다.

고립된 조사 활동으로서는 한계가 있으며, 또한 침략의 증거를 숨기려는 일본 정부 당국이나 대기업에 튼튼히 대항 할 수도 없습니다.

요때까지 일본 각처에서 개인이나 그룹(그룹)으로 조사와 연구를 해 온 사람들, 그리고 앞으로 자기도 해 보자는 사람들이 서로 연(련)락을 갖는 것이 중요하다고 생각합니다.

서로 연(련)락하여 그 연(련)락망을 확대시켜, 넓어진 힘을 질적으로 깊이 해 가므로 각가지 조사와 연구에 도움이 되고 각처의 조사와 연구에서 성과가 올으면, 연(련)락망은 더욱 튼튼해지며 침략의 역(력)사적 책임을 회피 할려는 분사를 포위 해 나아갈 수 있다고 생각합니다.

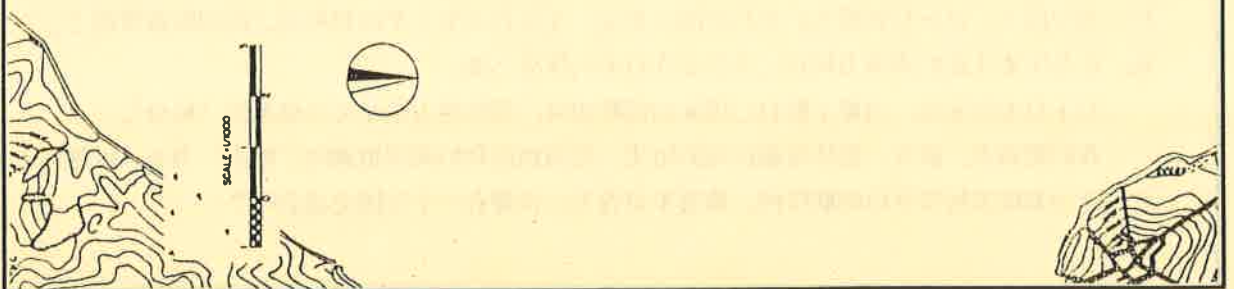
이 연(련)락망을 우선 「조선인·중국인 강제 연(련)행·강제 노(로)동을 생각할 전국 교류회」로 부르기로 할립니다.

각종 광산, 발전소, 철도나 도로의 터널(땅굴), 지하 공장... 조선인, 중국인이 혹사 당하며 건강을 상하며 사고나 병으로 목숨 잃은 장소의 거의가 지하의 어둠 속이었습니다.

그리고 아직껏 일본 각처의 지하에 매워져 있는 조선인, 중국인 노(로)동자가 적지 않습니다. 그러한 조선인, 중국인한테 도달하고자 합니다. 재일 조선인과 재일중국인에 있어서는 살아서 고향으로 돌아가지 못했던 동포들이 매워져 있는 지역이야말로 왜 자기가 일본에 있느냐 하는 역(력)사적인 이(리)유를 명백히 하는 장소라고 생각합니다.

일본인에 있어서 그 지역은 스스로의 침략의 역(력)사를 밝히려고 할 때 반드시 도착하고야 마는 원점이라고 생각합니다.

도착해야 할 자리로 도착할 날까지 조사와 연구의 영(령)역에서 우리는 민중의 역(력)사를 파들어 간다. 이런 뜻으로 앞으로의 전국 연(련)락망 조직을 전망하면서, 우선 전국 교류회를 열어 봅시다.



朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える 全国交流集会へのご案内

1. と き 1990年 8 月25日(土)～26日(日) (2 日間)
2. 交流集会会場 名古屋市熱田区役所ホール
〒456 名古屋市熱田区旗屋 9 - 5 ☎(052)681-1431 (地図は裏面)
3. 現地調査・見学 岐阜県可児市「地下軍需工場跡」・瑞浪市地下軍需工場跡に立つ
※名古屋からバス約1時間半 「日中不再戦の誓い」碑見学。
※現地調査は貸切バスで宿泊地「働く人の家」の前を26日朝8時30分に出発します。
4. 日 程

	8	12	6	10
25日		受付	交流集会	夕食・交流会
26日		出発～現地調査～		名古屋市内解散
5. 費 用
 - ・交流集会参加費 1,500円 (会場・資料費)
 - ・現地調査参加費 3,000円 (交通費)
 - ・宿 泊 4,000円 (1泊3食)

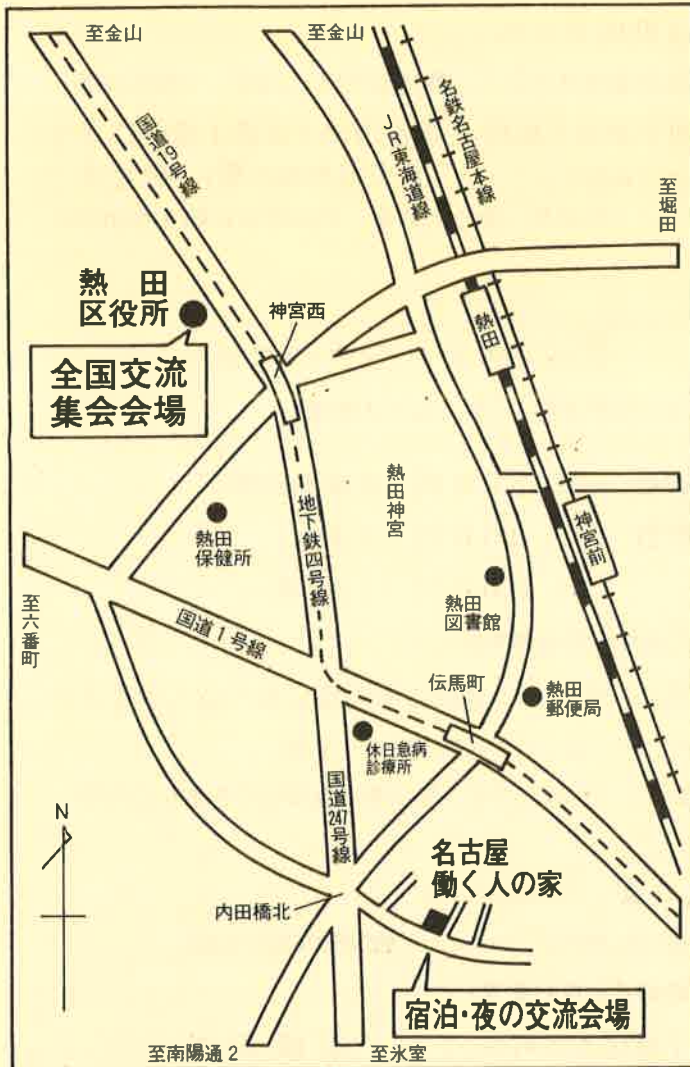
※小・中学生は交流集会参加費無料です。
6. 参加申込方法 参加申込書を下記まで送付し、郵便振替口座に振り込んで下さい。
※グループでまとめて申し込んで下されば助かります。
※やむをえず不参加となった場合でも、参加費の返却はできませんので、ご了承下さい。
7. 宿 泊
夜の交流会場 「名古屋働く人の家」 (地図は裏面)
〒456 名古屋市熱田区伝馬町 2-28-14 ☎(052)682-5204
※宿泊は大部屋での泊りとなります。
8. 申し込み
問い合わせ 〒456 名古屋市千種区池上町 2-7-1 本橋正男
(もと はし まさ お) ☎(052)781-4690
9. 送 金 先 郵便振替 名古屋 1-105713 本橋正男 (ピットムの会)
10. 申し込み締切り 7月30日(月)

申 込 書

名 前				男・女	年 令	所 属 団 体		
連絡先	TEL () -							
宿 泊	要 ・ 不 要		集会への要望、etc.					
現地調査・見学	参 加 ・ 不 参 加							
食 事	25日(土)夕食	要 ・ 不要						
	26日(日)朝食	要 ・ 不要						
	26日(日)昼食	要 ・ 不要						

※該当するものを○でかこんでください。

会場案内図



■JRで

名古屋

東海道線

- ・ 2 駅目
- ・ 普通のみ停
- ・ 約20分毎

熱田

徒歩

下車

■地下鉄で

名古屋

東山線

2~3分毎
(5分)

栄

乗り換え

名城線

7分毎
(10分)

神宮西

徒歩

下車

■車で

「国道19号線」沿い。

「熱田神宮」北西。

名古屋働く人の家

宿泊・夜の交流会場